

第3章 整備方針

1 施設整備の基本方針

準備委員会では、やまと学園の教育目標や15歳の大和っ子像等を踏まえ、国が設置した学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議がとりまとめた「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（令和4年3月策定）」の考え方を参考に、今後のやまと学園の施設を考える上での「柱」と「具体例」を協議・整理し、「目指す学園像」としてとりまとめました。

「目指す学園像」は、施設整備の基本方針になるものです。

【「目指す学園像」とりまとめまでの過程】

令和4年11月30日 ワークショップ「理想のやまと学園」

施設一体型小中一貫やまと学園としての在りたい姿を考え、子どもたちの「学び」と「育ち」を中心に、大和地域で子どもたちが学ぶ環境や育つ姿、児童・生徒・地域のつながりなど、幅広い視点から多様な意見を出し合いました。

令和5年1月31日 子どもワークショップ「未来のやまと学園はこんなところ！」

やまと学園の小学6年生と中学2年生が一緒にグループで考え、「小中学生で仲良く遊べる」「体験学習が充実する」など、未来のやまと学園に期待する思いを共有しました。

令和5年3月4日 ワークショップ「やまと学園の新たな学び舎の姿」

これまでのワークショップで挙げた意見を参考にしながら、大切にしたい視点や機能などを中心に意見を出し合いました。

令和5年3月14日 第3回学校運営部会

これまでのワークショップをもとに、「学び」「生活」「共創」の3つの領域について更に協議を深め、学園の施設を考える上での「柱」と「具体例」を整理してとりまとめました。

【新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について】

令和の時代になりGIGAスクール構想による1人1台端末や校内ネットワークの拡充が進み、少人数学級の実現や、ポストコロナを見据えたニューノーマル※が求められる状況を背景として、新しい時代の学びにふさわしい学校施設の在り方を明確化し、それを実現することが求められています。新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について、「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」の5つの姿の方向性を掲げています。

※ニューノーマルとは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う甚大な影響は、広範で長期にわたるため、感染症が収束したポストコロナの世界は、新たな世界へと移行するとの見方が強いと言われており、これを「ニューノーマル」としています。

【施設一体型小中一貫やまと学園「目指す学園像」の概要】

光市の教育理念・教育目標

- 教育理念 連携と協働で育む 光の教育
- 教育目標 夢と希望にあふれ 未来へ輝く『光っ子』の育成

光市が目指す学校

- 連携・協働を基盤とした学校
- 子どもたちの「学び」を第一義においた学校

やまと学園の教育目標・15歳の大和っ子像

- 教育目標 自ら考動し、多様な他者と協働しながら
未来を拓く児童・生徒の育成
- 15歳の大和っ子像 大和を愛し、未来にはばたく大和っ子
 - 自分が好き、人が好き、大和が大好きな子ども
 - 感謝の気持ちをもち、さわやかなあいさつができる子ども
 - 夢や希望をもち、努力を惜しまない子ども

理想のやまと学園（準備委員会での意見）

- 子どもは通いたい!! 保護者は通わせたい!!
地域は集いたい!! 教師は学び、教えたい!! ワクワクする学園
- 子どもたち、教職員、地域の人が互いの存在を尊重し、希望をもってしっかり学べる学園



※イラスト：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」を加工して作成

【基本方針】

（１）学び

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現します。

【柱１】小・中学生と地域の人々がつどい学び合う空間

小・中学生と地域の人々が、ただ集まるだけでなく、学び合える空間が必要です。

そのためには、多目的な機能や、いろいろな学習パターンに対応できる学習空間が求められます。



地域の人たちと連携・協働する空間



多様な学習活動が展開できる空間

【柱２】個（子）に応じて学びを深める空間

一人ひとりの「個」に応じて、「子」の学びを深めていくことのできる空間が必要です。

子どもの特性に応じて学ぶことができる空間や、ＩＣＴを活用した個別学習ができる空間を整備します。



ＩＣＴを活用した個別学習ができる空間

【柱３】学びの成果を発信できる空間

個で追究した学びや、小中や地域の方々と学び合い、そこで深めた学びを発信して学びの成果を広げていくとともに、そのフィードバックとしていろいろな声を聴いて学びをより深めることにより、学びの循環を生み出していくことのできる空間を創造します。



学びの成果を発信できる空間

※掲載している画像・イラストはイメージ図となります。

※出典：文部科学省ホームページ (<https://www.mext.go.jp/>)

（２）生活

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現します。

【柱１】ぬくもりのある学び舎

木のぬくもりや和室の落ち着きなど、物質的なぬくもりから心のぬくもりにつなげることができる空間を工夫します。



畳コーナーのある図書室



温かみや味わいのある木材の使用

【柱２】開放感のある快適な学び舎

採光による明るさや風通しが良いことで快適さが確保され、開放感を得られる空間を工夫します。



開放感のある共用スペース

【柱３】一堂に会せる学び舎

全ての児童・生徒に加えて、地域の方もみんなが集える、ランチルームのような広い場所を整備します。



多目的に活用できるランチルーム

【柱４】自然にやさしい学び舎

自給自足をキーワードに、太陽光発電によるエネルギーや給食の食べ残しから作りたい肥などを活用し、環境学習ができるような機能を充実させます。



太陽光発電を活用した環境学習

（３）共創

地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現します。

【柱１】伝統文化を学び伝える拠点としての学校

各地域で育まれてきた伝統文化が、次世代に受け継がれていくよう、伝統文化を学び伝える拠点としていくための空間を構築します。



地域の歴史や伝統文化の展示コーナー



石城太鼓



束荷神舞

【柱２】地域交流を通したふれあいの場としての学校

地域の方から子どもたちが学び、子どもたちから地域の方が学ぶような、地域交流を通したふれあいの場としての空間を創造します。



地域住民による読み聞かせ

【柱３】小中互いに学び合える成長の場としての学校

小学生が中学生から学び、また、中学生が小学生の存在により自覚を高めるといった好循環の中で、ともに刺激し合いながら成長できる空間を工夫します。



異学年交流の場